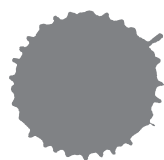


2023

大学院ハンドブック

【更新】2023/08/03
p8「(5)修士論文等閲覧」…東京外苑キャンパスでの閲覧申込方法を変更



学校法人 瓜生山学園

京都芸術大学 大学院

芸術研究科(通信教育)

社会人と芸術のあらたな関係を目指して

芸術活動には普遍的な価値の創出と伝達という性格だけでなく、それに携わる個々の人間の感性の洗練と技術の追究というきわめて個別的な性格も存在しています。そのため、近年では、経済や文化の汎地球化の流れが強まる中で、それに抗するかのように地域性を強調する流れも生まれています。しかし本来の芸術制作はグローバル対ローカルという単純な対立にはおさまらず、そもそも個性・地域性と普遍性・世界性を共存させるところに大きな意味があります。

そのことを踏まえ、京都芸術大学大学院（通信教育）では、今日の情報化社会において個々の人間や地域の環境が芸術活動にとっていかなる意義を有しているのか、またその活動環境を作り育てることはいかにして可能なのかを実践的に研究します。これは自分のフィールドに根ざして制作や研究を続ける学生にこそ有利な専門分野であり、通信教育という手段を通じて学生個々の制作・研究と相互の交流の双方を実現しようとするものです。

そのため、本研究科の芸術環境専攻には次の4領域と、領域をまたいだ超域プログラムが設けられています。すなわち、地域環境における芸術についての比較文化史的研究と制作・教育活動を探究する芸術環境研究領域、地域に根ざしつつ作品という独特の場を発生させる美術・工芸領域、地域での自然と人間の関係を具体的な空間という形で考究する環境デザイン領域、それぞれの生活環境や仕事の間をデザインの力で改善する方法を探究する学際デザイン研究領域、そして制作行為によって社会に強く関与しようとする超域プログラムです。

本研究科の目標は、これらの領域で研鑽をつんだ学生たちが、それぞれの活躍する場でさまざまな形の芸術環境という花を咲かせ、それぞれがお互いを模範として、またあらたな芸術の種を蒔いてゆくことにほかなりません。これからの芸術運動の担い手となるべく、ぜひ本学での研究制作に参加してください。

目次

3つのポリシー	2
1. 学習を進めるにあたって	3
2. 科目一覧	4
3. 修了要件、修了研究・修了制作着手要件	7
4. スクーリング日程	9
5. 学位審査	12
6. 資格課程	26
7. 学習に関する質問方法	27

DP(ディプロマ・ポリシー)

修士課程では、芸術・文化に関する広範で清新な知識を基礎にして、社会や自然における芸術の意義と役割を認識するとともに、個別の専門領域において発見した独自のテーマを柔軟かつ論理的な思考によって展開し、高度な成果物として表現できる人材を育成します。

さらに、学位の種別に応じて、次の能力の獲得を目指します。

- ・既存の価値観にとらわれることなく、新たな視点による学際的研究に取り組み、その成果を学術論文としての的確にまとめる能力（「修士（学術）」授与の場合）。
- ・自己と他者、芸術と社会、個と全体の関わりについて真摯に向き合い、高度な意志疎通能力と呈示能力を備え、作家、研究者などの専門的職業人や芸術的手法を駆使する社会人として、芸術分野の将来的発展に寄与する能力（「修士（芸術）」授与の場合）。

CP(カリキュラム・ポリシー)

修士課程（通信教育）のカリキュラムは、ディプロマポリシーを達成するために「専攻共通科目」「分野特論」「研究指導科目」で構成されています。

- ・専攻共通科目では社会や自然における芸術の意義についての認識を獲得します。
- ・分野特論では、専門分野に関する知見を深め、研究制作を行うためのさまざまな技能や方法を身につけます。
- ・研究指導科目では独自性ある研究制作を自律的に遂行し、明瞭な形で呈示する能力を身につけます。

AP(アドミッション・ポリシー)

修士課程（通信教育）では、さまざまな職業、経験を持ちながら、本学で芸術に関わる専門性を深め、社会で活動してゆく意欲を持った方の入学を期待しています。そのため入学者の選考にあたっては特に以下の点を重視します。

- ・自他を尊重しつつ意見を交わしながら制作研究を続けられること。
- ・芸術に関し修了研究・修了制作を遂行するのに必要な専門的な能力を身につけていること。
- ・修士課程（通信教育）の教育目標や授業形態を十分に理解していること。

1.学習を進めるにあたって

学習を進めるにあたっては、airU学習ガイドもあわせて参照してください。

(1) 履修形態

通信教育における開講科目は「テキスト科目」と「スクーリング科目」に大きく分けられます。具体的な科目形態は以下のとおりです。

テキスト科目	TX	テキスト特別科目	自宅学習	科目ごとに提出期間が定められている科目
スクーリング科目	WS	Webスクーリング科目	自宅学習	Web上での動画学習とレポート試験があり、レポート試験提出期間、全体講評視聴期間が定められている科目（申し込みは不要）
	SR	スクーリング演習・研究科目	対面/遠隔授業	スクーリング申込せずに履修できる科目
	S	スクーリング科目	対面/遠隔授業	スクーリング申込の必要がある科目

※上記以外の科目形態としてTR科目、TW科目、GS科目がありますが、大学院科目として該当科目はありません。

※WS科目は単位修得しても、修了要件の単位としては認められません。

(2) TX科目・WS科目の履修期間・課題提出期間

▶各科目のシラバスを参照

それぞれ3ヶ月のタームで「春期・夏期・秋期・冬期」の履修の区切りがあります。各科目の具体的な履修期間、課題提出期間については各科目のシラバスを確認してください。課題の提出期間やWS科目の全体講評の視聴期間は各自で管理してください。

万一、下記の表に示されたスケジュールに変更が生じたときは、airUマイページ>「お知らせ」等で周知します。

課題提出スケジュール		春期			夏期			秋期			冬期		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
TX	テキスト特別科目		課題 11～22			課題 11～21			課題 11～20			課題 11～20	
WS	Webスクーリング科目	動画視聴	レポート 21～28	全体講評 13～20	動画視聴	レポート 21～28	全体講評 13～20	動画視聴	レポート 21～28	全体講評 13～20	動画視聴	レポート 21～28	全体講評 13～20

修了判定にかかる方は修了関連科目以外の科目を冬期（1月～3月）に履修することはできません。

ただし、修了要件必修科目（TX）において、秋期（10月～12月）の課題が不合格かつ当該科目以外の修了要件を充たす見込みの方に限り、冬期の履修を認めることがあります。

(3) 課題提出方法

科目により、「airUのみ」「airUと郵送・窓口」「郵送・窓口のみ」があります。締切日当日の課題締切時刻は提出方法により、airUは13:00大学サーバー着信分まで、郵送は本学に必着、窓口は当日受付時間17:00までに提出と決まっています。

(4) スクーリング科目(S)の申込方法・キャンセル

スクーリング科目(S)の申し込みは3ヶ月ごと（年4回）に先行募集を行います。受講予定のスクーリングはairUマイページより先行募集で申し込むようにしてください。定員に空きのある科目についてはスクーリング開講の30～5日前まで追加募集を行います。また、受講許可後からキャンセル時期により10～100%のキャンセル料がかかります。詳細はairU学習ガイド>学習方法>スクーリング科目(S)>スクーリングキャンセル・欠席の手続きを確認してください。

なお、スクーリング演習・研究科目(SR)については申し込みを行う必要はありません。

＜スクーリング申込スケジュール＞

開催期	申込方法	スクーリング申込期間	申込結果公開日(受講許可日)
春期 (4～6月)	先行	3月27日～3月30日	4月10日13:00
	追加	4月12日～開講30～5日前	受講許可後、随時
夏期 (7～9月)	先行	5月17日～5月25日	6月7日13:00
	追加	6月10日～開講30～5日前	受講許可後、随時
秋期 (10～12月)	先行	8月17日～8月25日	9月7日13:00
	追加	9月9日～開講30～5日前	受講許可後、随時
冬期 (1～3月)	先行	11月17日～11月25日	12月7日13:00
	追加	12月9日～開講30～5日前	受講許可後、随時

・Web申込は申込開始日13:00から申込締切日13:00大学サーバー着信分まで

・スクーリング科目における追加募集の締切日につきましては、airUマイページ>スクーリング>「スクーリングを申し込む」>スクーリング一覧より確認してください。

※申込結果は、Web申し込みはairUマイページから、「申し込み状況/受講票」を確認、印刷できます。

2.科目一覧

●:必修科目 ○:いずれか選択必修

TX:テキスト特別科目

S:スクーリング科目

SR:スクーリング演習・研究科目

WS:ウェブスクーリング科目

科目群	配当年次	科目コード	科目名	開講区分	単位数	芸術環境研究領域				美術・工芸領域		環境デザイン領域		超域プログラム			備考
						比較芸術学分野	文化遺産・伝統芸術分野	地域文化デザイン分野	芸術教育分野	日本画分野	洋画分野	建築デザイン分野	日本庭園分野	後藤ラボ	青木ラボ	保科ラボ	
専攻共通	1年次～	30616	芸術環境論特論Ⅰ	TX	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	いずれか1科目を選択必修
		30617	芸術環境論特論Ⅱ	TX	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		30602	芸術環境原論Ⅰ	TX	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		30603	芸術環境原論Ⅱ	TX	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
分野特論	1年次～	30621	芸術環境特論Ⅰ-1	TX	2	●	●										比較芸術学分野、文化遺産・伝統芸術分野のみ履修可
		30622	芸術環境特論Ⅰ-2	TX	2	●	●										
		30631	芸術環境特論Ⅰ-3	TX	2	●	●										
		30091	芸術環境特論Ⅴ-1	S	1	○	○										
		30092	芸術環境特論Ⅴ-2	S	1	○	○										
		30093	芸術環境特論Ⅴ-3	S	1	○	○										
		30094	芸術環境特論Ⅴ-4	S	1	○	○										
		30095	芸術環境特論Ⅴ-5	S	1	○	○										
		30096	芸術環境特論Ⅴ-6	S	1	○	○										
		30097	芸術環境特論Ⅴ-7	S	1	○	○										
		30098	芸術環境特論Ⅴ-8	S	1	○	○										
		30099	芸術環境特論Ⅴ-9	S	1	○	○										
		30100	芸術環境特論Ⅴ-10	S	1	○	○	2023年度休講									
		30614	芸術環境特論Ⅲ-1	TX	2			●	●								
		30615	芸術環境特論Ⅲ-2	TX	2			●	●								
		30101	芸術環境特論Ⅵ-1	S	1			●	●								
		30102	芸術環境特論Ⅵ-2	S	1			●	●								
		30103	芸術環境特論Ⅵ-3	S	1			●	●								
		30104	芸術環境特論Ⅵ-4	S	1			●	●								
		30623	美術・工芸特論Ⅰ-1	TX	2					●	●						
		30624	美術・工芸特論Ⅰ-2	TX	2					●	●						
		30041	美術・工芸特論Ⅱ-1 ※2019年度まで開講	S	2					●	●						
		30042	美術・工芸特論Ⅱ-2 ※2019年度まで開講	S	2					●	●						
		30107	美術・工芸特論Ⅲ-1	S	1					●	●						
		30108	美術・工芸特論Ⅲ-2 ※2022年度まで開講	S	1					●	●						
		30649	美術・工芸特論Ⅳ-1	TX	1					●	●						
		30650	美術・工芸特論Ⅳ-2	TX	1					●	●						

2019年度までに「美術・工芸特論Ⅱ-1」を履修済の場合「美術・工芸特論Ⅲ-1、Ⅳ-1」履修不可、「美術・工芸特論Ⅱ-2」を履修済の場合「美術・工芸特論Ⅲ-2、Ⅳ-2」履修不可

科目群	配当年次	科目コード	科目名	開講区分	単位数	芸術環境研究領域				美術・工芸領域		環境デザイン領域		超域プログラム			備考
						比較芸術学分野	文化遺産・伝統芸術分野	地域文化デザイン分野	芸術教育分野	日本画分野	洋画分野	建築デザイン分野	日本庭園分野	後藤ラボ	青木ラボ	保科ラボ	
分野特論	1年次～	30625	環境デザイン特論Ⅰ-1	TX	2							●					airUでのみ履修可
		30626	環境デザイン特論Ⅰ-2	TX	2							●					
		30627	環境デザイン特論Ⅱ-1	TX	2							●	●				
		30628	環境デザイン特論Ⅱ-2	TX	2							●					
		30629	環境デザイン特論Ⅲ-1	TX	2							●					airUでのみ履修可 ※1
		30630	環境デザイン特論Ⅲ-2	TX	2							●					
		30105	環境デザイン特論Ⅳ-3	S	1							●					建築デザイン分野 のみ履修可※1
		30106	環境デザイン特論Ⅳ-4	S	1							●					
		30641	超域制作学特論Ⅰ-1	TX	2									●	●	●	超域プログラム のみ履修可
		30642	超域制作学特論Ⅰ-2	TX	2									●	●	●	
		30647	超域制作学特論Ⅳ-1	TX	2									●			後藤ラボのみ履修可
		30648	超域制作学特論Ⅳ-2	TX	2									●			
		30655	超域制作学特論Ⅴ-1 ※2022年度まで開講	TX	2										●		青木ラボのみ履修可
		30656	超域制作学特論Ⅴ-2 ※2022年度まで開講	TX	2										●		
		30657	超域制作学特論Ⅵ-1	TX	2											●	保科ラボのみ履修可
		30658	超域制作学特論Ⅵ-2	TX	2											●	

修了研究・修了制作に着手するためには、前年度にまで着手要件（p.7）を満たす必要がありますので、計画的に履修してください。

科目群	配当年次	科目コード	科目名	開講区分	単位数	芸術環境研究領域				美術・工芸領域		環境デザイン領域		超域プログラム			備考
						比較芸術学分野	文化遺産・伝統芸術分野	芸術教育分野	地域文化デザイン分野	日本画分野	洋画分野	建築デザイン分野	日本庭園分野	後藤ラボ	青木ラボ	保科ラボ	
演習・研究 ※2	1年次～	30003	芸術環境演習Ⅰ	SR	4	●	●	●	●								
		30005	芸術環境演習Ⅲ	SR	4	●	●	●	●								
	2年次	30021	芸術環境研究Ⅰ	SR	8	●	●	●	●								
	1年次～	30044	美術・工芸演習（日本画） ※2022年度まで開講	SR	8					●							
	2年次	30023	美術・工芸研究（日本画）	SR	8					●							
	1年次～	30045	美術・工芸演習（洋画） ※2022年度まで開講	SR	8						●						
	2年次	30024	美術・工芸研究（洋画）	SR	8						●						
	1年次～	30055	環境デザイン演習（建築デザイン）	SR	8							●					※1
	2年次	30027	環境デザイン研究（建築デザイン）	SR	8							●					
	1年次～	30056	環境デザイン演習（日本庭園） ※2022年度まで開講	SR	8								●				
	2年次	30029	環境デザイン研究（日本庭園）	SR	8								●				
	1年次～	30087	超域制作学演習Ⅲ	SR	8									●			
	2年次	30090	超域制作学研究Ⅲ	SR	8									●			
	1年次～	30114	超域制作学演習Ⅳ	SR	8										●		
	2年次	30115	超域制作学研究Ⅳ	SR	8										●		
	1年次～	30116	超域制作学演習Ⅴ	SR	8											●	
	2年次	30117	超域制作学研究Ⅴ	SR	8											●	
自由選択	1年次～	30071 30074	環境デザイン実習Ⅰ～Ⅳ （インターンシップ／建築）	S	各4												建築デザイン分野のみ履修可※1
自由選択 ※2	1年次～	30079	論文研究基礎	S	1												
		41101～2 41109～10	芸術史講義（日本）1～4	WS	各2												airUでのみ履修可
		41103～4 41111～2	芸術史講義（アジア）1～4	WS	各2												
		41105～6 41113～4	芸術史講義（ヨーロッパ）1～4	WS	各2												
		41107～8 41115～6	芸術史講義（近現代）1～4	WS	各2												
必修科目合計単位数						30	30	30	30	30	30	30	30	30	30		
修了要件単位数※2						30	30	30	30	30	30	30	30	30	30		

※1：建築士免許登録におけるインターンシップ及びインターンシップ関連科目。

※2：芸術環境研究領域全分野、環境デザイン領域 日本庭園分野、超域プログラム 制作学（後藤ラボ）で修了研究・修了制作着手要件の個別指定（p.7参照）の対象者は規定の30単位に加えて数単位増加することになります。修了要件には含みません。

3.修了要件、修了研究・修了制作着手要件

大学院を修了するためには「単位」と呼ばれる文部科学省が定めた尺度に基づいて、授業（科目）を履修することが必要です。「修了要件」とは、修了するために定められている最低単位数や必修科目のことです。大学院における修了要件は、各領域およびプログラム毎に指定された必修科目を含んで30単位以上を修得することによって満たすことができます。大学院の場合は必修科目の一つに2年次（修了年度）に修了研究・修了制作に関連する研究科目がありますが、これに着手するためには1年次（修了年度の前年度）にいくつかの要件を満たしておかなければなりません。これを「修了研究・修了制作着手要件」といいます。

なお、各要件は、以下のように定められています。

□修了研究・修了制作着手要件

	芸術環境研究領域 【比較芸術学/文化遺産・伝統芸術/芸術教育/地域文化デザイン】	美術・工芸領域 【日本画/洋画】	環境デザイン領域 【建築デザイン/日本庭園】	超域プログラム 【制作学】
専攻共通	「芸術環境論特論Ⅰ、Ⅱ」4単位修得済み、「芸術環境原論Ⅰ、Ⅱ」から2単位以上修得済み。			
分野特論	—			
演習	専攻分野の「芸術環境演習Ⅰ、Ⅲ」8単位修得済み。	専攻分野の「美術・工芸演習」8単位修得済み。	専攻分野の「環境デザイン演習」8単位修得済み。	専攻ラボの「超域制作学演習」8単位修得済み。

【修了研究・修了制作着手要件の個別指定】

※芸術環境研究領域全分野／環境デザイン領域 日本庭園分野／超域プログラム 制作学（後藤ラボ）対象

出願書類と指定提出物による書類審査によって、論文を執筆するにあたっての基礎的な科目や、芸術史の科目など、基礎的な知識を養うための科目が修了研究・修了制作着手要件において追加で指定される場合があります。

初年度に指定する科目を合格することが、2年目以降に修了研究・修了制作に着手するための追加要件となります。

□修了要件

	芸術環境研究領域 【比較芸術学/文化遺産・伝統芸術/芸術教育/地域文化デザイン】	美術・工芸領域 【日本画/洋画】	環境デザイン領域 【建築デザイン/日本庭園】	超域プログラム 【制作学】
専攻共通	「芸術環境論特論Ⅰ、Ⅱ」4単位修得済み、「芸術環境原論Ⅰ、Ⅱ」から2単位以上修得済み、計6単位以上			
分野特論	専攻領域の特論を含む 8単位以上			
演習（1年次～）	専攻分野 8単位			
研究（2年次）	専攻分野 8単位			
合計	30単位以上 かつ、必要な研究指導を受けたうえで、「修士論文」、あるいは「研究活動実施報告を伴う修士論文」の審査および試験に合格すること。	30単位以上 かつ、必要な研究指導を受けたうえで、「修士制作作品および修士論文（制作研究ノート）」の審査および試験に合格すること。	30単位以上 かつ、必要な研究指導を受けたうえで、「修士制作作品および修士論文（制作研究ノート）」あるいは「修士論文」※1 または「研究活動実施報告を伴う修士論文」※1 の審査および試験に合格すること。 ※1: 日本庭園分野のみ	30単位以上 かつ、必要な研究指導を受けたうえで、「修士論文」※1 あるいは「修士制作作品および修士論文（制作研究ノート）」※2 の審査および試験に合格すること。 ※1: 後藤ラボ ※2: 青木ラボ・保科ラボ

※必修科目（選択必修科目）については、本書pp.4～6を参照してください。

(1) 修了予定者の履修スケジュール ▶p.12参照

今年度修了予定の方は、修了関連科目以外の科目を冬期（1月～3月）に履修することはできません。秋期（10月～12月）までに必ず、修了研究・修了制作関連科目以外の科目の履修を完了するように計画的に学習を進めてください。

(2) 修了予定者のTX科目冬期特別履修

修了判定にかかる方は、上記（1）のとおり、修了関連科目以外の科目は冬期（1～3月）に履修することはできませんが、修了要件必修科目（TX）において、秋期（10月～12月）の課題が不合格かつ当該科目以外の修了要件を充たす見込みの方に限り、冬期の履修を特別に認めます。

これらの条件に該当し、冬期特別履修を希望される方は、12月25日（月）【必着】までに、電子メール、コンシェルジュ（質問フォーム）にて通信教育課程教務課にお申し出ください。

なお、対象科目は修了要件の必修TX科目かつ2科目4単位を上限とします。

ただし、以下の科目は対象外といたします。

30614「芸術環境特論Ⅲ-1」、30615「芸術環境特論Ⅲ-2」

30647「超域制作学特論Ⅳ-1」、30648「超域制作学特論Ⅳ-2」

30657「超域制作学特論Ⅵ-1」、30658「超域制作学特論Ⅵ-2」

(3) 修了研究・修了制作着手の辞退

以下のいずれかに該当する場合、その年度の修了研究・修了制作着手は辞退したものととして取り扱います。

- ・「修士学位審査提出物題目届」が未提出である
- ・「修士学位審査願」および「修士論文等」が未提出である

(4) 研究科目の履修と学位審査

本専攻では、修了予定年度に履修する研究科目に着手するための条件として、領域およびプログラム毎に「修了研究・修了制作着手要件」を設けており、これに基づいて着手判定を行います。着手判定は次年度の学籍状況が「学習」である場合に行われます。着手判定の対象になった方には3月下旬（予定）に修了研究・修了制作着手結果を通知します。この通知で「着手許可」となった方は、次年度に研究科目を履修し審査試験を受けます。審査および試験に合格した方は、修士論文を正式に大学へ提出いただきます。

(5) 修士論文等閲覧

2010年度以降に提出された修士論文等のうち、著作者本人が閲覧承諾しているものについては、データでの閲覧が可能です（複写不可）。ただし、5月中旬～下旬（予定）はデータメンテナンスのため、閲覧不可となり、6月以降（予定）に前年度分も含め閲覧可能となります。

1. 瓜生山キャンパスで閲覧する

芸術文化情報センター内の通信大学院学位論文等閲覧用PCで閲覧可能です。事前申し込みは不要です。

2. 東京外苑キャンパスで閲覧する

通信大学院学位論文等閲覧用PCで閲覧可能です（1階のエントランスロビーでのみ、外部への持ち出し不可）。事前に申し込みが必要です。希望閲覧日の1ヶ月～1週間前までに、以下の内容を、コンシェルジュもしくはメール（question@air-u.kyoto-art.ac.jp）でお送りください。

・タイトル：大学院「修士論文等」 閲覧申込（東京外苑キャンパス）

・所属領域/分野 ・学籍番号 ・氏名 ・閲覧希望日時（第1希望日時および第2希望日時）

申請受理後、閲覧可否と指定日時を返信します。当日は外苑キャンパス事務室にお声かけください。

閲覧をキャンセルする場合は、必ずコンシェルジュもしくはメール（question@air-u.kyoto-art.ac.jp）にてキャンセルの旨をご連絡ください。

【閲覧時の注意事項】

- ・ 芸術文化情報センター、東京外苑キャンパス開館中のみ閲覧可能です。あらかじめ開館日時を確認してください。
- ・ 閲覧日当日は、必ず学生証を持参してください。

4.スクーリング日程

			科目名	開講日程		会場	スクーリングコード	
演習・研究	芸術環境研究領域	比較芸術学分野	芸術環境演習Ⅰ／ 芸術環境演習Ⅲ／ 芸術環境研究Ⅰ	加藤ゼミ	4/23(日)、6/25(日)、8/27(日)、 10/8(日)、11/19(日)	京都	3000301001／3000501001／3002101001	
			小林・武井ゼミ	東京■		3000301006／3000501006／3002101006		
		文化遺産・伝統芸術分野	芸術環境演習Ⅰ／ 芸術環境演習Ⅲ／ 芸術環境研究Ⅰ	栗本・五島ゼミ	4/16(日)、6/25(日)、8/27(日)、 10/8(日)、11/19(日)	京都	3000301002／3000501002／3002101002	
				重田・井上ゼミ	4/23(日)、6/25(日)、8/27(日)、 10/8(日)、11/19(日)		3000301003／3000501003／3002101003	
				石神ゼミ	4/23(日)、6/25(日)、8/27(日)、 10/8(日)、11/19(日)	東京■	3000301007／3000501007／3002101007	
				金子ゼミ	4/23(日)、6/18(日)、8/27(日)、 10/15(日)、11/18(土)		3000301008／3000501008／3002101008	
		芸術教育分野	芸術環境演習Ⅰ／ 芸術環境演習Ⅲ／ 芸術環境研究Ⅰ	上村ゼミ	4/22(土)、6/25(日)、8/26(土)、 10/21(土)、11/19(日)	京都	3000301004／3000501004／3002101004	
				本間・上村ゼミ	4/23(日)、6/25(日)、8/27(日)、 10/8(日)、11/19(日)	東京■	3000301009／3000501009／3002101009	
		地域文化デザイン分野	芸術環境演習Ⅰ／ 芸術環境演習Ⅲ／ 芸術環境研究Ⅰ	伊達ゼミ	4/22(土)、6/25(日)、8/26(土)、 10/21(土)、11/19(日)	京都	3000301005／3000501005／3002101005	
		美術・工芸領域	日本画分野	美術・工芸演習(日本画)	2022年度まで開講			
	美術・工芸研究(日本画)			4/15(土)～4/16(日)	京都	3002301001		
				6/10(土)～6/11(日)				
				7/29(土)～7/30(日)				
				9/23(土)～9/24(日)				
				10/28(土)～10/29(日)				
				12/9(土)～12/10(日)				
	洋画分野		美術・工芸演習(洋画)	2022年度まで開講				
			美術・工芸研究(洋画)	4/15(土)～4/16(日)	京都	3002401001		
				6/17(土)～6/18(日)				
				7/22(土)～7/23(日)				
				9/23(土)～9/24(日)				
				10/28(土)～10/29(日)				
				12/9(土)～12/10(日)				

		科目名	開講日程	会場	スクーリングコード	
演習・研究	環境デザイン分野	環境デザイン研究 (建築デザイン)	木造住宅実務設計:横内スタジオ (京都)			
			4/8 (土)	京都	環境デザイン研究 (建築デザイン) 横内スタジオ:3002701001	
			4/30 (日)	京都		
			5/28 (日)	京都		
			6/25 (日)	京都		
			7/22 (土)	京都		
			7/23 (日)	京都		
			8/27 (日)	京都		
			9/24 (日)	京都		
			10/22 (日)	京都		
			11/19 (日)	京都		
			12/16 (土)	東京■		
			12/17 (日)	東京■		
			木造住宅実務設計:堀部スタジオ (東京)			
			4/8 (土)	京都	環境デザイン研究 (建築デザイン) 堀部スタジオ:3002701003	
			4/30 (日)	東京■		
			5/28 (日)	東京■		
			6/25 (日)	東京■		
			7/22 (土)	京都		
			7/23 (日)	京都		
			8/26 (土)	東京■		
			9/24 (日)	東京■		
			10/22 (日)	東京■		
			11/25 (土)	東京■		
			12/16 (土)	東京■		
			12/17 (日)	東京■		
	日本庭園分野	環境デザイン演習 (日本庭園)	2022年度まで開講			
		環境デザイン研究 (日本庭園)	4/8 (土)	京都	3002901001	
			5/6 (土)	京都		
			6/3 (土)	東京 (学外)■		
			7/1 (土)	京都		
			8/5 (土) ~ 8/6 (日)	京都		
			9/2 (土)	京都 (学外)■		
			10/7 (土)	京都		
			11/4 (土)	奈良■		
			11/18 (土)	京都		
			12/2 (土) ~ 12/3 (日)	京都		
	超域プログラム	後藤ラボ	超域制作学演習Ⅲ 超域制作学研究Ⅲ	4/23 (日)	東京■	超域制作学演習Ⅲ:3008701001 超域制作学研究Ⅲ:3009001001
			5/20 (土) ~ 5/21 (日)			
			8/5 (土)			
			10/21 (土) ~ 10/22 (日)			
			12/16 (土) ~ 12/17 (日)			
		青木ラボ	超域制作学演習Ⅳ 超域制作学研究Ⅳ	4/23 (日)	東京■	超域制作学演習Ⅳ:3011401001 超域制作学研究Ⅳ:3011501001
				5/21 (日)	東京■	
				6/24 (土)	遠隔	
				8/26 (土)	茨城■	
				10/14 (土)	茨城■	
11/26 (日)				遠隔		
12/17 (日)				東京■		
2024/1/20 (土)				東京■		

			科目名	開講日程	会場	スクーリングコード
演習・研究	超域プログラム	保科ラボ	超域制作学演習 V 超域制作学研究 V	4/23 (日)	東京■	超域制作学演習 V : 3011601001 超域制作学研究 V : 3011701001
				5/27 (土)	東京■	
				6/24 (土)	東京■	
				9/8 (金) ~ 9/10 (日)	長野■	
				10/22 (日)	東京■	
				11/26 (日)	東京■	
				12/17 (日)	東京■	
				2024/1/19 (金) ~ 1/21 (日)	長野■	

分野特論・自由選択スクーリングの申し込み方法・キャンセル

下表の分野特論、自由選択スクーリングは申し込みが必要です。スクーリングの申し込みは3ヶ月ごと（年4回）にairUにて先行募集を行います。受講予定のスクーリングは先行募集で申し込むようにしてください。なお、スクーリング申込用紙は大学から送付しませんので、申込期間にairUマイページより申し込みしてください。定員に空きのある科目についてはスクーリング開講の30～5日前まで追加募集を行います。また、受講許可後からキャンセル時期により10～100%のキャンセル料がかかります。各申込スケジュールや申込方法などの詳細は『airU学習ガイド』をご確認ください。

			科目名	開講日程	会場	スクーリングコード	申込期
分野特論			芸術環境特論 V-1 (芸術環境を巡る諸問題) T1	9/30 (土) ~ 10/1 (日)	東京■	3009101001	夏期 (7~9月)※
			芸術環境特論 V-1 (芸術環境を巡る諸問題) E1		遠隔	3009101002	
			芸術環境特論 V-2 (祭礼と感性) K1	10/21 (土) ~ 10/22 (日)	京都	3009201001	秋期 (10~12月)※
			芸術環境特論 V-2 (祭礼と感性) E1		遠隔	3009201002	
			芸術環境特論 V-3 (東洋芸術史の諸問題) T1	6/3 (土) ~ 6/4 (日)	東京■	3009301001	春期 (4~6月)※
			芸術環境特論 V-3 (東洋芸術史の諸問題) E1		遠隔	3009301002	
			芸術環境特論 V-4 (写真の諸相) K1	12/23 (土) ~ 12/24 (日)	京都	3009401001	秋期 (10~12月)※
			芸術環境特論 V-4 (写真の諸相) E1		遠隔	3009401002	
			芸術環境特論 V-5 (伝統文化の諸問題) E1	9/23 (土) ~ 9/24 (日)	遠隔	3009501001	夏期 (7~9月)
			芸術環境特論 V-6 (外国文学) K1	11/4 (土) ~ 11/5 (日)	京都	3009601001	秋期 (10~12月)
			芸術環境特論 V-7 (外国文学) T1	9/23 (土) ~ 9/24 (日)	東京■	3009701001	夏期 (7~9月)
			芸術環境特論 V-8 (日本芸術史の諸問題) T1	4/29 (土) ~ 4/30 (日)	東京■	3009801001	春期 (4~6月)※
			芸術環境特論 V-8 (日本芸術史の諸問題) E1		遠隔	3009801002	
			芸術環境特論 V-9 (西洋美術史の諸問題) K1	12/9 (土) ~ 12/10 (日)	京都	3009901001	秋期 (10~12月)
			芸術環境特論 V-10 (伝統文化の諸問題) E1	2023年度休講			
			芸術環境特論 VI-1	5/3 (水・祝) ~ 5/4 (木・祝)	遠隔■	3010101001	春期 (4~6月)
			芸術環境特論 VI-2	7/29 (土) ~ 7/30 (日)	長野■	3010201001	夏期 (7~9月)
			芸術環境特論 VI-3	10/28 (土) ~ 10/29 (日)	大阪■	3010301001	秋期 (10~12月)
			芸術環境特論 VI-4	9/2 (土) ~ 9/3 (日)	仙台■	3010401001	夏期 (7~9月)
			美術・工芸特論 III-1	6/3 (土) ~ 6/4 (日)	遠隔	3010701001	春期 (4~6月)
			美術・工芸特論 III-2	2022年度まで開講			
			環境デザイン特論 IV-3	6/10 (土) ~ 6/11 (日)	京都	3010501001	春期 (4~6月)
			環境デザイン特論 IV-4	10/7 (土) ~ 10/8 (日)	東京■	3010601001	秋期 (10~12月)

			科目名	開講日程	会場	スクーリングコード	申込期
自由選択			論文研究基礎E1	5/13 (土)	遠隔	3007901001	春期 (4~6月)
			論文研究基礎ET1	6/3 (土)	遠隔+東京■	3007901002	春期 (4~6月)
			論文研究基礎ET2	6/4 (日)	遠隔+東京■	3007901003	春期 (4~6月)
			論文研究基礎EK1	7/8 (土)	遠隔+京都	3007901004	夏期 (7~9月)
			論文研究基礎EK2	7/9 (日)	遠隔+京都	3007901005	夏期 (7~9月)
			論文研究基礎E2	9/9 (土)	遠隔	3007901006	夏期 (7~9月)
			論文研究基礎E3	9/10 (日)	遠隔	3007901007	夏期 (7~9月)
			論文研究基礎EK3	9/30 (土)	遠隔+京都	3007901008	夏期 (7~9月)
			論文研究基礎EK4	12/23 (土)	遠隔+京都	3007901009	秋期 (10~12月)
			論文研究基礎ET3	12/23 (土)	遠隔+東京■	3007901010	秋期 (10~12月)
			論文研究基礎E4	2024/2/17 (土)	遠隔	3007901011	冬期 (1~3月)

※授業内容はどちらも同じです。詳しくはシラバスを確認してください。

5.学位審査

5-1. 学位審査に関するスケジュール

学位審査においては、授業とは別に提出締切日や最終試験（口述）日が指定されています。
以下のスケジュールを確認し、提出忘れや準備不足の無いようにしてください。

時 期	手続き内容	対象
3月下旬	修了判定・修了制作着手判定結果を通知	大学→【学生】
9月～10月	「修士学位審査提出物題目届」を提出（研究科目スクーリング時） ※提出後、題目の変更（副題含む）は原則認められません。 万一これを変更する場合は、必ず指導教員と相談し、承認が必要です。	【学生】→大学
12月上旬	「修士学位審査願」送付	大学→【学生】
秋期まで	【修了研究・修了制作着手者】S科目・TX科目の年度最終締切 ※修了研究・修了制作関連科目を除くすべての科目について、年度最終締切分として受付・添削された課題評価がD判定（不合格）となった場合は、年度内に再提出できる機会がありません。また、S科目においても、冬期に受講することができませんので、秋期までに合格するように計画してください。期日については、各科目シラバスを確認してください。	【学生】→大学
2024年1月6日（土）～ 1月10日（水）【必着】	修士学位審査願1部、修士論文各3部を提出 ※提出物に不備がある場合（例：提出物の不足、指定書式が守られていない等）は受理できません。	【学生】→大学
2024年1月中旬	「修士学位審査願受理結果通知」送付 ※最終試験（口述）の日時についてお知らせします。	大学→【学生】
2024年1月27日（土）～ 1月28日（日）のうち 主査の指定する日時	最終試験（口述） ※美術・工芸領域は前日に作品審査を行います。	【学生】
2024年2月9日（金） 【必着】	【最終試験時に再提出の指示があった者のみ、以下の①②③を提出】 ①〔訂正前〕の修士論文（学位審査提出物に朱書訂正を施したもの）1部 ②〔訂正後〕の修士論文（訂正指示を受けて作成し直したもの）1部 ③訂正箇所一覧（A4判任意書式）1部	※再提出の指示があった者のみ 【学生】→大学
2024年3月上旬	修了判定結果を通知	大学→【学生】
2024年3月上旬～ 3月13日（水）【必着】	【修了可となった者のみ、以下を提出】 修士論文 1部 修士論文のデータ 1部 ※芸術環境研究領域、美術・工芸領域、環境デザイン領域、超域プログラムはデータ必須 ※未提出の場合、修了が取消となることがあります。	【学生】→大学
2024年3月16日（土）	学位授与式	【学生】

5-2. 留意事項

期日厳守
各提出締切に遅延した場合は、いかなる理由があってもこれを受理いたしません。
送付時の指定
学位に関連する重要な書類です。提出にあたってはすべて簡易書留（宅配便等、到着の確認ができるものも可）とし、期日内【必着】で「通信教育課程教務課学位審査係」宛に提出してください。 なお、大学への到着状況は追跡サービスを利用し、各自で確認してください。
提出物の取り扱い
一度提出した修士論文等は提出期間内であっても修正、追加を行うことができません。提出前にコピーをとるなどして、最終試験に備えてください。万一、学位審査に供する提出物と齟齬があった場合には、申請そのものを取消します。なお、修士論文は、修了判定結果の通知とともに返却します。

5-3. 修士論文等の形式

修士論文等は、その内容により下記のいずれかの形態で作成し、必要な他の提出物とあわせて所定期間内に必要部数を通信教育課程教務課学位審査係まで提出してください。所属する領域により、提出可能な形態が異なりますので、各自の研究内容と所属領域に照らし、下表にて提出形態を確認してください。

領域	提出形態
芸術環境研究領域	「修士論文」または「研究活動実施報告を伴う修士論文」
美術・工芸領域	「修士制作作品および修士論文（制作研究ノート）」
環境デザイン領域	「修士論文」「修士制作作品および修士論文（制作研究ノート）」 「研究活動実施報告を伴う修士論文」 ※建築デザイン分野は「修士制作作品および修士論文（制作研究ノート）」に限る
超域プログラム	「修士論文」（後藤ラボ） 「修士制作作品および修士論文（制作研究ノート）」（青木ラボ・保科ラボ）

<2021年度からの変更点>

表記について、以下のとおり統一いたしますので、ご確認ください。

2020 年度まで		2021 年度から
学位申請論文等、学位論文等	→	修士論文等
口頭試問	→	最終試験（口述）
「修士論文等題目届」	→	「修士学位審査提出物題目届」
「修士論文等審査願」	→	「修士学位審査願」

芸術環境研究領域

・提出物と作成形態

「修士論文」「研究活動実施報告を伴う修士論文」のいずれか 3部

「修士学位審査願」 1部

・提出形態：以下に準ずる。

修士論文

(1) 記述すべき内容

研究対象となる問題の意義を明らかにし、それに関する従来の国内外の研究を広く調査して批判的考察を加えるとともに、問題の解決に必要な新たな理論を根拠、論証とともに呈示する。

(2) 作成形態

①論文

- ・本文文字数は400字詰原稿用紙80枚分(32,000字)以上100枚分(40,000字)以内(本文末尾に総文字数を記入すること)。本文文字数に目次、注釈、図版、挿図、表は含まない。
- ・縦書き、横書きいずれも可。
- ・原稿用紙はA4判400字詰であれば市販のものでも可。
- ・ワープロの場合はA4縦判を次の通りレイアウトする。

	段組有無、一行の文字数×行数
縦書き	二段組、一段35字×一段30行(1ページあたり2,100文字)
横書き	段組なし、40字×25行(1ページあたり1,000文字)

- ・指定書式による表紙(p.23参照)を添付すること。
- ・目次を本文の直前に挿入し、注釈、註、参考文献リストは本文末尾に挿入すること。
- ・図版、挿図は本文中に記載するか、大きいものは巻末資料にまとめるなどして適宜見やすく工夫すること。巻末資料にまとめる場合は、注釈、註、参考文献リストの後に挿入すること。
- ・本文～巻末資料にページ番号を付すこと(各ページ下方であれば場所・表記形式は任意)。表紙と目次にはページ番号不要。

②要約

- ・本文の書式にあわせ2,000字程度(末尾に総文字数を記入すること)。
- ・指定書式による表紙(p.23)を添付し、題目の後ろにはカッコ書きで「(要約)」と明記すること。
- ・p.24「修士論文の綴じ方」の図を参考に1箇所をホチキスでとめること。

上記①論文と②要約(クリアポケット)をまとめてA4縦判2穴紙ファイルにファイリングする。ファイル表紙には、題目、所属専攻・領域・分野、学籍番号、氏名を明記すること▶p.24参照

中身の並び順(要約(クリアポケット)→指定表紙→目次→本文→注釈、註、参考文献リスト→巻末資料)

研究活動実施報告を伴う修士論文

(1) 記述すべき内容

当該領域にとって重要な理論的基盤を提供するような特定の対象(地域、人物、活動、素材、技法など)について、周到な調査、実験を行い、今後の研究に資する報告を記述する。ただし調査・実験の報告とあわせて、関連・近接する他の研究事例を参考にしつつ方法論的な反省を加え、かつ理論的展望を示す必要がある。

(2) 作成形態

①研究活動実施報告を伴う論文

- ・本文文字数は400字詰原稿用紙20枚分(8,000字)以上100枚分(40,000字)以内(本文末尾に総文字数を記入すること)。本文文字数に目次、注釈、図版、挿図、表は含まない。
- ・縦書き、横書きいずれも可。
- ・原稿用紙はA4判400字詰であれば市販のものでも可。
- ・ワープロの場合はA4縦判を次の通りレイアウトする。

	段組有無、一行の文字数×行数
縦書き	二段組、一段35字×一段30行(1ページあたり2,100文字)
横書き	段組なし、40字×25行(1ページあたり1,000文字)

- ・指定書式による表紙 (p.23参照) を添付すること。
- ・目次を本文の直前に挿入し、注釈、註、参考文献リストは本文末尾に挿入すること。
- ・図版、挿図は本文中に記載するか、大きいものは巻末資料にまとめるなどして適宜見やすく工夫すること。
巻末資料にまとめる場合は、注釈、註、参考文献リストの後に挿入すること。
- ・本文～巻末資料にページ番号を付すこと (各ページ下方であれば場所・表記形式は任意)。表紙と目次にはページ番号不要。

②要約

- ・本文の書式にあわせ2,000字程度 (末尾に総文字数を記入すること)。
- ・指定書式による表紙 (p.23) を添付し、題目の後ろにはカッコ書きで「(要約)」と明記すること。
- ・p.24「修士論文の綴じ方」の図を参考に1箇所をホチキスでとめること。

③報告資料 (報告書の内容および分量によっては必須)

次の i～iv いずれかの形態にまとめること。製本等含め、作品現物の提出は認めない。

なお、複数の形態で提出する場合は1冊のA4縦判クリアファイルにまとめること。

i) 作品写真

- ・カラープリント六つ切サイズまたはA4サイズ、あるいはA4サイズの写真専用紙にカラー出力したものを、1枚以上提出する。
- ・作品写真は提出枚数にかかわらず、1枚ずつA4縦判クリヤーポケットに入れ、修士論文を綴じるA4縦判2穴紙ファイル末尾に綴じ込むこと。
- ・作品写真裏面には、所属専攻・領域、分野、学籍番号、氏名、作品名、素材、サイズなどを明記すること。
- ・あまりにも実物と色調が異なる写真やピンボケの写真では確認・審査に支障をきたすため、この点を十分考慮し写真を準備すること。

ii) 図面

- ・A4サイズ二つ折りのり付け製本 (観音製本) とする。表紙はダイヤボード、表紙の色は鶯色とする。表紙には、所属専攻・領域、分野、学籍番号、氏名を明記すること。
- ・もとの図面はA3サイズで作成したものを二つ折り製本しA4サイズとすること。ただし図面は縮尺を変更しレイアウトしなおすか、縮小すること。また図面の縮尺などによりA3サイズにまとめることが困難な場合は、一部折り込みも可とする。
- ・A4縦判2穴紙ファイルにダブルクリップ (1個) でとめること。▶p.24参照

iii) 作品映像

- ・形態：DVD-RまたはUSBメモリ
- ・記載項目：作品タイトル、収録時間 (分)、収録日、撮影地点 (住所) など
- ・所属専攻・領域、分野、学籍番号、氏名を上記記載項目とあわせてメディア表面とパッケージに明記すること
- ・DVD-RW、DVD+R、DVD+RW等は不可
- ・DVD-Rは日本製のメーカー品を推奨、書き込みはDVD-Video形式、NTSC、国コード「2」(日本) とする。
- ・メディアが落下・破損しないよう梱包し、A4縦判クリヤーポケットに入れてA4縦判2穴紙ファイル末尾に綴じること。▶p.24参照

iv) その他

上記 i～iii 以外の展示会パンフレット、ワークショップ開催時の配付資料、各種メディアに掲載記事の写し、など自身の研究活動記録となる資料

- ・A4縦判クリヤーポケットに入れること
- ・A4縦判クリヤーポケットに収まらない場合は現物の提出を認めない。代わりに報告資料を写真に撮ったものを出力し、A4縦判クリヤーポケットに収めて提出すること。

上記①研究活動実施報告を伴う修士論文と②要約 (クリヤーポケット)、③報告資料 (必要に応じて) をまとめてA4縦判2穴紙ファイルにファイリングする。ファイル表紙には、題目、所属専攻・領域・分野、学籍番号、氏名を明記すること。▶p.24参照

中身の並び順 (要約 (クリヤーポケット) → 指定表紙 → 目次 → 本文 → 注釈、註、参考文献リスト → 巻末資料 → 報告資料)

美術・工芸領域

・提出物と作成形態

「修士論文（制作研究ノート）」（修士制作作品の写真添付のこと） 3部

「修士学位審査願」 1部

・提出形態：以下に準ずる。

（修士制作作品および修士論文（制作研究ノート））

（1）記述すべき内容

学位審査に供する修士作品について、その制作動機にはじまり、コンセプト、思想を述べ、それを具体化するために用いた表現、作品形態、技法、素材などについて論述する。

また、影響を受けた理論、作家、作品があればこれを比定して本論の補強とすることを可とするが、他者の文章等を引用する場合は量の多少に関わらず、註として本文とは別に記述すること。なお、他者の文章であってもその内容を咀嚼し自身の言葉におきかえる場合は、全文字数の1.5割までこれを認める。

（2）作成形態

①修士論文（制作研究ノート）

- ・本文文字数は400字詰原稿用紙10枚分（4,000字）以上40枚分（16,000字）以内（本文末尾に総文字数を記入すること）。本文文字数に目次、注釈、図版、挿図、表は含まない。
- ・縦書き、横書きいずれも可。
- ・原稿用紙はA4判400字詰であれば市販のものでも可。
- ・ワープロの場合はA4縦判を次の通りレイアウトする。

	段組有無、一行の文字数×行数
縦書き	二段組、一段35字×一段30行（1ページあたり2,100文字）
横書き	段組なし、40字×25行（1ページあたり1,000文字）

- ・ページ番号を付すこと（各ページ下方であれば場所・表記形式は任意）。
- ・表紙を添付すること（p.23修士論文表紙サンプル参照）。
- ・A4縦判2穴紙ファイルにファイリングする。ファイル表紙には、題目、所属専攻・領域、分野、学籍番号、氏名を明記すること▶p.24参照

②修士制作作品

以下の形態にまとめ、修士論文（制作研究ノート）に綴じ込むこと。

- ・カラープリント六つ切サイズまたはA4サイズ、あるいはA4サイズの写真専用紙にカラー出力したものを、1枚以上提出する。
- ・作品写真は提出枚数にかかわらず、1枚ずつA4縦判クリヤーポケットに入れ、修士論文（制作研究ノート）を綴じたA4縦判2穴紙ファイル末尾に綴じ込む。
- ・作品写真裏面には、所属専攻・領域、分野、学籍番号、氏名、作品名、素材、サイズなどを明記すること。
- ・あまりにも実物と色調が異なる写真やピントのぼけた写真では確認・審査に支障をきたすため、この点を十分考慮し写真を準備すること。

※美術・工芸領域は、最終試験（口述）までに作品（現物）を展示し、作品審査を行ないます。作品審査詳細については研究室より別途案内します。

環境デザイン領域

建築デザイン分野

- ・提出物と作成形態
「修士制作作品および修士論文（制作研究ノート）」 3部
「修士学位審査願」 1部
- ・提出形態：以下に準ずる。

修士制作作品および修士論文（制作研究ノート）

(1) 記述すべき内容

学位審査に供する修士作品について、その制作条件から、設計思想、コンセプトを述べ、それを具体化するために用いた構成、工法、部材、素材、手法工夫について論述するとともに、更にその効用までをまとめる。また、影響を受けた理論、作家、作品があればこれを比定して本論の補強とすることを可とするが、他者の文章等を引用する場合は量の多少に関わらず、註として本文とは別に記述すること。なお、他者の文章であってもその内容を咀嚼し自身の言葉におきかえる場合は、全文字数の1.5割までこれを認める。加えて、修了制作作品に至る3作品の概要をまとめると共に、その成果がどのような形で修了制作作品に結実したかについても記述する。

(2) 作成形態

①修士論文（制作研究ノート）

- ・本文文字数は400字詰原稿用紙10枚分（4,000字）以上40枚分（16,000字）以内（本文末尾に総文字数を記入すること）。本文文字数に目次、注釈、図版、挿図、表は含まない。
- ・縦書き、横書きいずれも可。
- ・原稿用紙はA4判400字詰であれば市販のものでも可。
- ・ワープロの場合はA4縦判を次の通りレイアウトする。

	段組有無、一行の文字数×行数
縦書き	二段組、一段35字×一段30行（1ページあたり2,100文字）
横書き	段組なし、40字×25行（1ページあたり1,000文字）

- ・ページ番号を付すこと（各ページ下方であれば場所・表記形式は任意）。
- ・表紙を添付すること（p.23の修士論文表紙サンプル参照）。
- ・A4縦判2穴紙ファイルにファイリングする。ファイル表紙には、題目、所属専攻・領域、分野、学籍番号、氏名を明記すること▶p.24参照

②修士制作作品

以下の形態にまとめること。作品現物の提出は認めない。

- ・修士制作作品の設計図書一式（模型写真4カット以上も含む）。他の3作品の設計図書一式も添付のこと（模型写真各4カット以上も含む）。
- ・合計4作品分の設計図書一式をA3サイズで作成し、A4サイズ二つ折りのり付け製本（観音製本）として提出。表紙はダイヤボード、表紙の色は鶯色とする。表紙には、所属専攻・領域、分野、学籍番号、氏名を明記すること。
- ・もとの図面はA3サイズで作成したものを二つ折り製本しA4サイズとすること。ただし図面は縮尺を変更しレイアウトしなおすか、縮小すること。また図面の縮尺などによりA3サイズにまとめることが困難な場合は、一部折り込みも可とする。
- ・修士論文（制作研究ノート）を綴じたA4縦判2穴紙ファイルにダブルクリップ（1個）で裏表紙の内側にとめること。▶p.24参照

日本庭園分野

- ・提出物と作成形態
「修士論文」「修士制作作品および修士論文（制作研究ノート）」「研究活動実施報告を伴う修士論文」のいずれか 3部
「修士学位審査願」 1部
- ・提出形態：以下に準ずる。

修士論文

(1) 記述すべき内容

研究対象となる問題の意義を明らかにし、それに関する従来の国内外の研究を広く調査して批判的考察を加えるとともに、問題の解決に必要な新たな理論を根拠、論証とともに呈示する。

(2) 作成形態

①論文

- ・本文文字数は400字詰原稿用紙80枚分(32,000字)以上100枚分(40,000字)以内(本文末尾に総文字数を記入すること)。本文文字数に目次、注釈、図版、挿図、表は含まない。
- ・縦書き、横書きいずれも可。
- ・原稿用紙はA4判400字詰であれば市販のものでも可。
- ・ワープロの場合はA4縦判を次の通りレイアウトする。

	段組有無、一行の文字数×行数
縦書き	二段組、一段35字×一段30行(1ページあたり2,100文字)
横書き	段組なし、40字×25行(1ページあたり1,000文字)

- ・ページ番号を付すこと(各ページ下方であれば場所・表記形式は任意)。
- ・表紙を添付すること(p.23の修士論文表紙サンプル参照)。
- ・A4縦判2穴紙ファイルにファイリングする。ファイル表紙には、題目、所属専攻・領域、分野、学籍番号、氏名を明記すること▶p.24参照

②要約

- ・本文の書式にあわせ2,000字程度(末尾に総文字数を記入すること)。
- ・指定書式による表紙(p.23)を添付し、題目の後ろにはカッコ書きで「(要約)」と明記すること(p.23の修士論文表紙サンプル参照)。
- ・p.23「修士論文本文および要約の綴じ方」の図を参考に1箇所をホチキスでとめること。
- ・A4縦判クリアポケットに入れ、A4縦判2穴紙ファイルに綴じること▶p.24参照

修士制作作品および修士論文(制作研究ノート)

(1) 記述すべき内容

学位審査に供する修士作品について、その制作条件から、設計思想、コンセプトを述べ、それを具体化するために用いた構成、工法、部材、素材、手法工夫について論述するとともに、更にその効用までをまとめる。

(2) 提出物と作成形態

①修士論文(制作研究ノート)

- ・本文文字数は400字詰原稿用紙10枚分(4,000字)以上40枚分(16,000字)以内(本文末尾に総文字数を記入すること)。本文文字数に目次、注釈、図版、挿図、表は含まない。
- ・縦書き、横書きいずれも可。
- ・原稿用紙はA4判400字詰であれば市販のものでも可。
- ・ワープロの場合はA4縦判を次の通りレイアウトする。

	段組有無、一行の文字数×行数
縦書き	二段組、一段35字×一段30行(1ページあたり2,100文字)
横書き	段組なし、40字×25行(1ページあたり1,000文字)

- ・ページ番号を付すこと(各ページ下方であれば場所・表記形式は任意)。
- ・表紙を添付すること(p.23の修士論文表紙サンプル参照)。
- ・A4縦判2穴紙ファイルにファイリングする。ファイル表紙には、題目、所属専攻・領域、分野、学籍番号、氏名を明記すること▶p.24参照

②制作物

以下の形態にまとめること。作品現物の提出は認めない。

- ・A4サイズ二つ折りのり付け製本(観音製本)として提出。表紙には、所属専攻・領域、分野、学籍番号、氏名を明記すること。
- ・もとの図面はA3サイズで作成したものを二つ折り製本しA4サイズとすること。ただし図面は縮尺を変更しレイアウトしなおすか、縮小すること。また図面の縮尺などによりA3サイズにまとめることが困難な場合は、一部折り込みも可とする。
- ・修士論文(制作研究ノート)を綴じたA4縦判2穴紙ファイルにダブルクリップ(1個)でとめること▶p.24参照

研究活動実施報告を伴う修士論文

(1) 記述すべき内容

当該領域にとって重要な理論的基盤を提供するような特定の対象（地域、人物、活動、素材、技法など）について、周到な調査、実験を行い、今後の研究に資する報告を記述する。ただし調査・実験の報告とあわせて、関連・近接する他の研究事例を参考にしつつ方法論的な反省を加え、かつ理論的展望を示す必要がある。

(2) 作成形態

①研究活動実施報告を伴う論文

- ・本文文字数は400字詰原稿用紙20枚分（8,000字）以上100枚分（40,000字）以内（本文末尾に総文字数を記入すること）。本文文字数に目次、注釈、図版、挿図、表は含まない。
- ・縦書き、横書きいずれも可。
- ・原稿用紙はA4判400字詰であれば市販のものでも可。
- ・ワープロの場合はA4縦判を次の通りレイアウトする。

	段組有無、一行の文字数×行数
縦書き	二段組、一段35字×一段30行（1ページあたり2,100文字）
横書き	段組なし、40字×25行（1ページあたり1,000文字）

- ・ページ番号を付すこと（各ページ下方であれば場所・表記形式は任意）。
- ・表紙を添付すること（p.23の修士論文表紙サンプル参照）。
- ・A4縦判2穴紙ファイルにファイリングする。ファイル表紙には、題目、所属専攻・領域、分野、学籍番号、氏名を明記すること▶p.24参照

②要約

- ・本文の書式にあわせ2,000字程度（末尾に総文字数を記入すること）。
- ・指定書式による表紙（p.23）を添付し、題目の後ろにはカッコ書きで「(要約)」と明記すること（p.23の修士論文表紙サンプル参照）。
- ・p.23「修士論文本文および要約の綴じ方」の図を参考に1箇所をホチキスでとめること。
- ・A4縦判クリアーポケットに入れ、A4縦判2穴紙ファイルに綴じること▶p.24参照

③報告資料（論文の内容および分量によっては必須）

次の i～iii いずれかの形態にまとめること。作品現物の提出は認めない。

なお、複数の形態で提出する場合は、1冊のA4縦判2穴紙ファイルにまとめること。

i) 作品写真

- ・カラープリント六つ切サイズまたはA4サイズ、あるいはA4サイズの写真専用紙にカラー出力したものを、1枚以上提出する。
- ・作品写真は提出枚数にかかわらず、1枚ずつA4縦判クリアーポケットに入れ、制作研究ノート綴じたA4縦判2穴紙ファイル末尾に綴じ込むこと。
- ・作品写真裏面には、所属専攻・領域、分野、学籍番号、氏名、作品名、素材、サイズなどを明記すること。
- ・あまりにも実物と色調が異なる写真やピンボケの写真では確認・審査に支障をきたすため、この点を十分考慮し写真を準備すること。

ii) 図面

- ・A4サイズ二つ折りのり付け製本（観音製本）とする。表紙はダイヤボード、表紙の色は鶯色とする。表紙には、所属専攻・領域、分野、学籍番号、氏名を明記すること。
- ・もとの図面はA3サイズで作成したものを二つ折り製本しA4サイズとすること。ただし図面は縮尺を変更しレイアウトしなおすか、縮小すること。また図面の縮尺などによりA3サイズにまとめることが困難な場合は、一部折り込みも可とする。
- ・A4縦判2穴紙ファイルにダブルクリップ（1個）でとめること▶p.24参照

iii) 作品映像

- ・形態：DVD-RまたはUSBメモリ
- ・記載項目：作品タイトル、収録時間（分）、収録日、撮影地点（住所）など
- ・所属専攻・領域、分野、学籍番号、氏名を上記載項目とあわせてメディア表面とパッケージに明記すること
- ・DVD-RW、DVD+R、DVD+RW等は不可
- ・DVD-Rは日本製のメーカー品を推奨、書き込みはDVD-Video形式、NTSC、国コード「2」（日本）とする。
- ・メディアが落下・破損しないよう梱包し、A4縦判クリアーポケットに入れてA4縦判2穴紙ファイル末尾に綴じること▶p.24参照

超域プログラム

後藤ラボ

- ・提出物と作成形態
「修士論文」 3部 「修士学位審査願」 1部
- ・提出形態：以下に準ずる。

修士論文

(1) 記述すべき内容

研究対象となる問題の意義を明らかにし、それに関する従来の国内外の研究を広く調査して批判的考察を加えるとともに、問題の解決に必要な新たな理論を根拠、論証とともに呈示する。

(2) 作成形態

①論文

- ・本文文字数は400字詰原稿用紙80枚分(32,000字)以上100枚分(40,000字)以内(本文末尾に総文字数を記入すること)。本文文字数に目次、注釈、図版、挿図、表は含まない。
- ・縦書き、横書きいずれも可。
- ・原稿用紙はA4判400字詰であれば市販のものでも可。
- ・ワープロの場合はA4縦判を次の通りレイアウトする。

	段組有無、一行の文字数×行数
縦書き	二段組、一段35字×一段30行(1ページあたり2,100文字)
横書き	段組なし、40字×25行(1ページあたり1,000文字)

- ・ページ番号を付すこと(各ページ下方であれば場所・表記形式は任意)。
- ・指定書式による表紙(p.23参照)を添付すること。
- ・A4縦判2穴紙ファイルにファイリングする。ファイル表紙には、題目、所属専攻・領域、ラボ、学籍番号、氏名を明記すること▶p.24参照

②要約

- ・本文の書式にあわせ2,000字程度(末尾に総文字数を記入すること)。
- ・指定書式による表紙(p.23)を添付し、題目の後ろにはカッコ書きで「(要約)」と明記すること。
- ・p.24「修士論文の綴じ方」の図を参考に1箇所をホチキスでとめること。
- ・A4縦判クリヤーポケットに入れ、A4縦判2穴紙ファイルに綴じること▶p.24参照

青木ラボ

- ・提出物と作成形態
「修士制作作品および修士論文(制作研究ノート)」 3部 「修士学位審査願」 1部
- ・提出形態：以下に準ずる。

修士制作作品および修士論文(制作研究ノート)

(1) 記述すべき内容

学位審査に供する制作研究について、以下の3項目を記すこと。

- ・制作研究に至った理論的背景と制作意図。
- ・制作研究を具体化するために用いた方法論、作品形態、素材、作業過程など。
- ・国内外の他の事例と比較した、制作研究の独自性と社会的意義。

(2) 作成形態

①修士論文(制作研究ノート)

- ・本文文字数は400字詰原稿用紙20枚分(8,000字)以上40枚分(16,000字)以内(本文末尾に総文字数を記入すること)。本文文字数に目次、注釈、図版、挿図、表は含まない。
- ・縦書き、横書きいずれも可。
- ・A4縦判を次の通りレイアウトする。

	段組有無、一行の文字数×行数
縦書き	二段組、一段35字×一段30行(1ページあたり2,100文字)
横書き	段組なし、40字×25行(1ページあたり1,000文字)

- ・ページ番号を付すこと(各ページ下方であれば場所・表記形式は任意)。
- ・表紙を添付すること(p.23修士論文表紙サンプル参照)。

- ・ A4縦判2穴紙ファイルにファイリングする。ファイル表紙には、題目、所属専攻・領域、ラボ、学籍番号、氏名を明記すること▶p.24参照

②概要

修士制作にかかわる代表的な図版1点を添え、題目、氏名、研究成果の概要（400字）を記載し、表紙と本文の間に綴じ込むこと。

③修士制作作品

以下の形態にまとめ、修士論文（制作研究ノート）に綴じ込むこと。

i) 作品写真

- ・ カラープリント六つ切サイズまたはA4サイズ、あるいはA4サイズの写真専用紙にカラー出力したものを、1枚以上提出する。
- ・ 作品写真は提出枚数にかかわらず、1枚ずつA4縦判クリヤーポケットに入れ、修士論文（制作研究ノート）を綴じたA4縦判2穴紙ファイル末尾に綴じ込むこと。
- ・ 作品写真裏面には、所属専攻・領域、ラボ、学籍番号、氏名、作品名、素材、サイズなどを明記すること。
- ・ あまりにも実物と色調が異なる写真やピンボケの写真では確認・審査に支障をきたすため、この点を十分考慮し写真を準備すること。

※青木ラボでは、提出物の他に最終試験（口述）までに作品（現物）を提示し、作品審査を行う。作品審査詳細については、研究室より別途案内する。

保科ラボ

・提出物と作成形態

「修士制作作品および修士論文（制作研究ノート）」 3部

「修士学位審査願」 1部

・提出形態：以下に準ずる。

修士制作作品および修士論文（制作研究ノート）

(1) 記述すべき内容

学位審査に供する制作研究について、以下の3項目を記すこと。

- ・ 制作研究に至った理論的背景と制作意図。
- ・ 制作研究を具体化するために用いた方法論、作品形態、素材、作業過程など。
- ・ 国内外の他の事例と比較した、制作研究の独自性と社会的意義。

(2) 作成形態

①修士論文（制作研究ノート）

- ・ 本文文字数は400字詰原稿用紙20枚分（8,000字）以上40枚分（16,000字）以内（本文末尾に総文字数を記入すること）。本文文字数に目次、注釈、図版、挿図、表は含まない。
- ・ 縦書き、横書きいずれも可。
- ・ A4縦判を次の通りレイアウトする。

	段組有無、一行の文字数×行数
縦書き	二段組、一段35字×一段30行（1ページあたり2,100文字）
横書き	段組なし、40字×25行（1ページあたり1,000文字）

- ・ ページ番号を付すこと（各ページ下方であれば場所・表記形式は任意）。
- ・ 表紙を添付すること（p.23修士論文表紙サンプル参照）。
- ・ A4縦判2穴紙ファイルにファイリングする。ファイル表紙には、題目、所属専攻・領域、ラボ、学籍番号、氏名を明記すること▶p.24参照

②概要

修士制作にかかわる代表的な図版1点を添え、題目、氏名、研究成果の概要（400字）を記載し、表紙と本文の間に綴じ込むこと。

③修士制作作品

以下の形態にまとめ、修士論文（制作研究ノート）に綴じ込むこと。

i) 作品写真

- ・ カラープリント六つ切サイズまたはA4サイズ、あるいはA4サイズの写真専用紙にカラー出力したものを、1枚以上提出する。
- ・ 作品写真は提出枚数にかかわらず、1枚ずつA4縦判クリヤーポケットに入れ、修士論文（制作研究ノート）を綴じたA4縦判2穴紙ファイル末尾に綴じ込むこと。
- ・ 作品写真裏面には、所属専攻・領域、ラボ、学籍番号、氏名、作品名、素材、サイズなどを明記すること。
- ・ あまりにも実物と色調が異なる写真やピンボケの写真では確認・審査に支障をきたすため、この点を十分考慮し写真を準備すること。

※保科ラボでは、提出物の他に最終試験（口述）までに作品（現物）を提示し、作品審査を行う。作品審査詳細については、研究室より別途案内する。

5-4. 修士論文提出

(1) 提出物 ※必ず以下の2点を一括（同封）で提出すること。

☐ 「修士学位審査願」 1部

☐ 「修士論文」 各3部

なお、一度提出した「修士論文」は提出期間内であっても修正、追加を行うことはできません
提出前にコピーをとるなどして最終試験（口述）に備えてください。

(2) 提出方法

以下をよく確認し、提出ください。

☐ 「修士学位審査願」(1部) に必要事項を記入する。

☐ 「A4 縦判2穴紙ファイル」を3部用意する。 ※リングファイル等は不可



紙ファイルの表紙

題目等、所属専攻・領域・分野またはラボ、学籍番号、氏名を明記する。

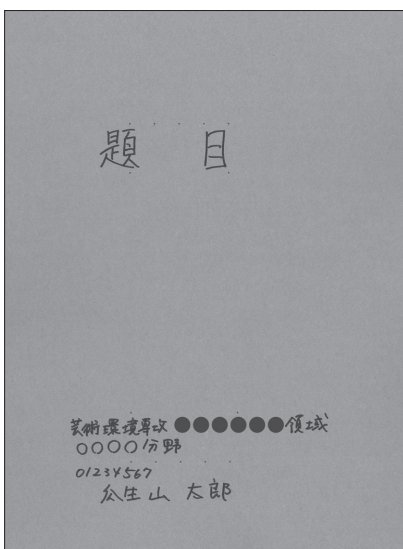
題目等は「修士学位審査願」に記入された内容と同一であること。

☐ 定められた提出形態に則り、表紙・目次・本文・(あれば) 資料、作品写真または図面等を各3部用意し、紙ファイルに綴じる。

☐ (郵送提出の場合) 簡易書留または宅配便等到着の確認ができる方法で送付する。

提出期間	2024 年 1 月 6 日 (土) ～ 1 月 10 日 (水) 【必着】
提出先	〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都芸術大学 通信教育課程教務課学位審査係 宛
提出方法	郵送または窓口提出 ※窓口提出は受付時間(月～土/9:00～17:00) 厳守のこと 日・祝日は休止日のため、窓口提出は受付不可 ※簡易書留で送付すること(宅配便等到着の確認ができるものも可)

(例)



修士論文 表紙サンプル

- ・必ず以下のフォームで作成すること。文字の大きさは任意で可。
- ・日付は西暦表示とすること。
- ・右上の日付は提出日とすること。
- ・要約にも同様の表紙を添付すること。ただし、題目の後ろにカッコ書きで、(要約)と明記すること。
- ・すべての修士論文に添付すること。

〈表紙横書き〉

20xx年○月○日

学位申請
20xx年度 修士論文

題 目 (要約) ※要約の場合のみ明記

指導教員
○○○教授

(所属専攻・領域・分野)
(学籍番号)
(氏 名)

〈表紙縦書き〉

10xx年○月○日

学位申請
10xx年度 修士論文

題 目 (要約) ※要約の場合のみ明記

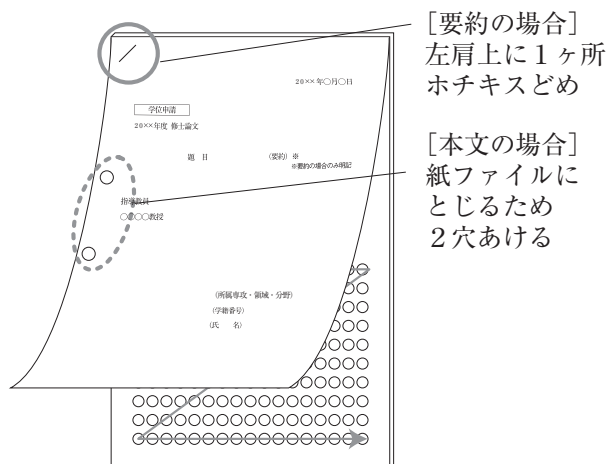
指導教員
○○○教授

(所属専攻・領域・分野)
(学籍番号)
(氏 名)

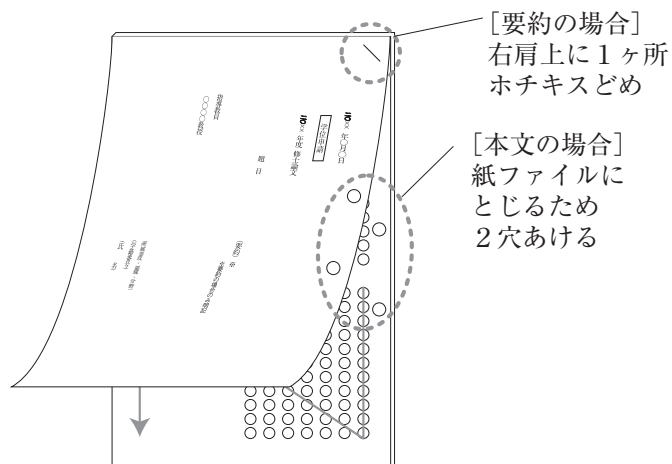
※用紙の印刷向きは縦設定

修士論文本文および要約の綴じ方

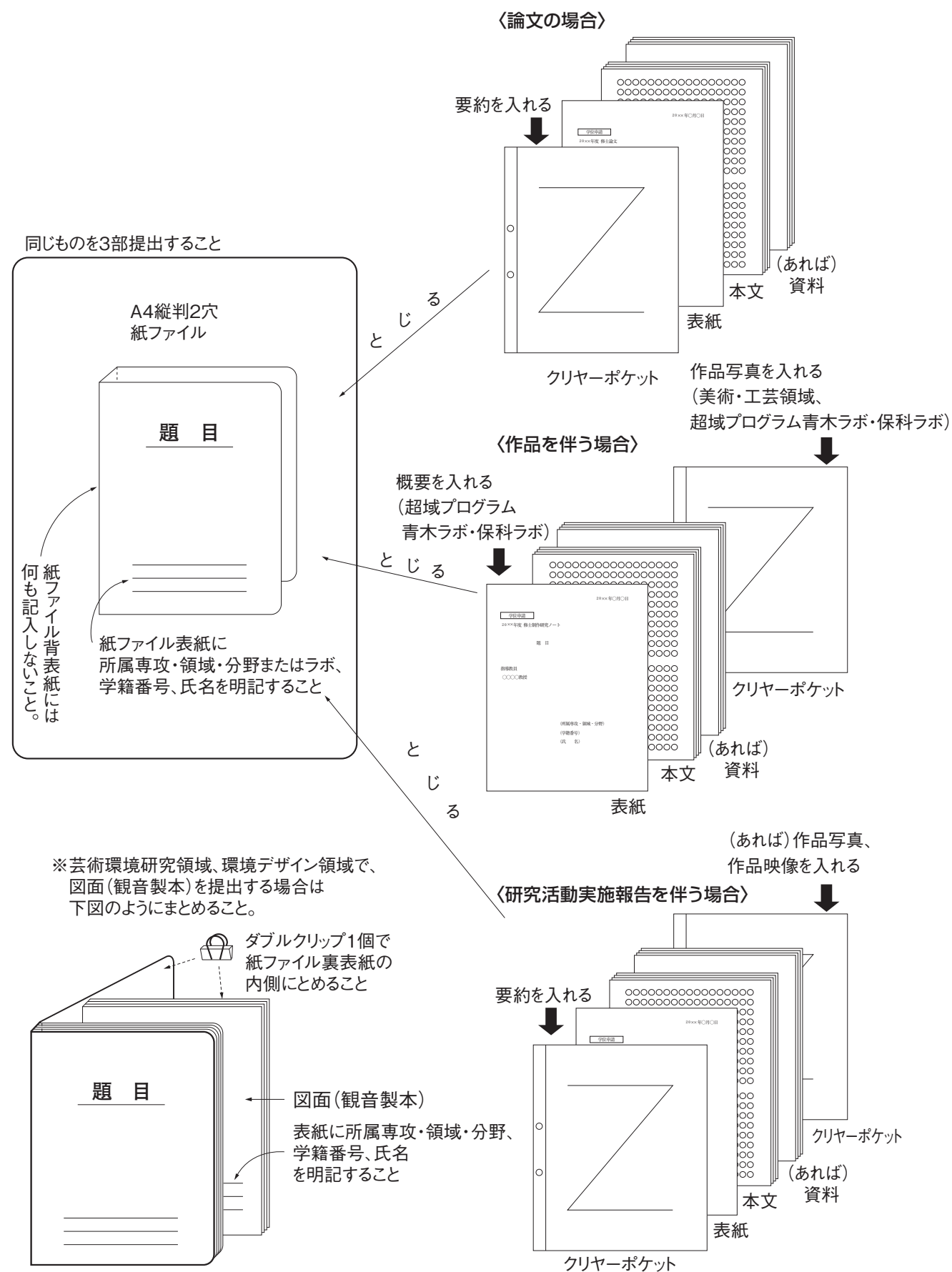
〈ワープロ横書きの場合〉



〈ワープロ縦書きの場合〉



修士論文の綴じ方



5-5. 学位審査に合格した修士論文の提出

3月上旬の修了判定結果通知後、修了が認められた方は「修士論文」の出力紙1部、データ1部を提出してください。出力紙提出の際に必要な紙ファイルは、修了判定結果の通知とあわせて大学より送付します。なお、期日までに修士論文等の提出がない場合、修了が取り消しになることもありますので、不備のないよう必ず期日までに提出してください。

(1) 提出物

- ☐ 「修士論文」 1部
各自が「修士論文」を提出した形態に応じて、「修士論文」を提出してください。
※紙ファイル・要約表紙・本文表紙については、3月上旬に大学からお送りしたものを使用すること。
- ☐ 「修士論文」のデータ
- ☐ 閲覧承諾確認書 1部（修了判定結果の通知とあわせて大学からお送りします）

(2) 提出方法

以下をよく確認し、提出してください。

提出期間	2024 年 3 月上旬～ 3 月 13 日（水）【必着】
------	-------------------------------

修士論文／閲覧承諾確認書
●提出先 〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都芸術大学 通信教育課程教務課学位審査係 宛
●提出方法 郵送または窓口提出 ※郵送での提出にあたっては全て簡易書留（宅配便等到着の確認ができるものも可）とし、期間内【必着】に「通信教育課程教務課学位審査係」まで送付してください。 ※窓口提出は受付時間内厳守のこと。日・祝日は休止日のため、窓口提出は不可。 （月～土／ 9：00 ～ 17：00、日・祝／窓口休止日）

修士論文のデータ
【芸術環境研究領域／美術・工芸領域／環境デザイン領域／超域プログラム】（必須） 「airU マイページ」より「修士論文」のデータを提出（PDFのみ）

6. 資格課程

6-1. 建築士資格の登録要件(大学院における実務経験要件)

(1) 環境デザイン領域 建築デザイン分野対象

大学院の課程において修得した科目が建築士資格の登録要件である実務経験として認められるためには、公益財団法人建築技術教育普及センターによって認定を受けた科目群の中から以下の単位数を満たす必要があります。

●：必ず受講 ○：いずれか選択受講

建築士法による要件		本学大学院の認定科目			実務経験	
					1年	2年
インターシップ科目	4単位以上	環境デザイン実習Ⅰ（インターンシップ/建築）※1	S	4	●	●
		環境デザイン実習Ⅱ（インターンシップ/建築）※1	S	4		●
		環境デザイン実習Ⅲ（インターンシップ/建築）※1	S	4		●
		環境デザイン実習Ⅳ（インターンシップ/建築）※1	S	4		●
インターシップ関連科目	講義／8単位以下	環境デザイン特論Ⅲ-1	TX	2	●	●
		環境デザイン特論Ⅲ-2	TX	2	●	●
		環境デザイン特論Ⅳ-1※2（2018年度まで開講）	S	2		○
		環境デザイン特論Ⅳ-2※2（2018年度まで開講）	S	2		○
		環境デザイン特論Ⅳ-3※2	S	1		○
		環境デザイン特論Ⅳ-4※2	S	1		○
	演習・実習／8単位以下	環境デザイン演習（建築デザイン）	SR	8	●	●
合計単位数（15単位以上で実務経験1年、30単位以上で2年）					16	30

※1「環境デザイン実習Ⅰ～Ⅳ（インターンシップ/建築）」の受講には所定の手続きが必要です。詳しくはシラバスを参照のこと。

※2「環境デザイン特論Ⅳ-1,2」（各2単位）または「環境デザイン特論Ⅳ-3,4」（各1単位、合計2単位）のいずれかの2単位が必要です。

※3 大学院における実務経験の要件は、「在学期間」と「その間の単位修得」となります。

実務経験として認められる年数は、修得した単位数に応じて、在学期間のうち1年ないし2年となります。

1年未満の在学で実務経験1年、2年未満の在学で実務経験2年は認められません。

(2) インターンシップガイダンス（必須）

「環境デザイン実習Ⅰ～Ⅳ（インターンシップ/建築）」の受講に際しては、インターンシップガイダンスを必ず受けてください。希望する場合は、コンシェルジュより問い合わせてください。

6-2. 芸術教育士課程

(1) 芸術教育士とは

芸術教育士の資格は、芸術活動を通じて個人やグループの文化創出の力を育てるための能力を認定するものです（本学が認定する独自の資格です）。芸術には元来自己教育という含意があります。美的な鑑賞物を制作する「芸術家」というよりも、芸術の持つ教育的側面に重きを置き、芸術によって人間の成長や文化的交流の場を作るような人材を指す呼称として、「芸術教育士」を用いています。その認定する能力には以下の諸段階を設けており、それぞれ芸術教育士の3級、2級、1級に相当します。

芸術教育士3級	他者と共に文化的価値の創出を行うという芸術教育の意味を理解したうえで、みずからの習熟する技芸に基づき、地域での芸術教育活動を実行できる能力。
芸術教育士2級	さまざまな模範的な事例を参考にしつつ、みずから地域での芸術教育プログラムを構想設計し、それを主導的に実行する能力。
芸術教育士1級	新たな技法や地域文化資源を独自に発見・研究し、そのもたらす文化的な価値を他者と共有するために教育プログラムを継続的に開発、遂行できる能力。

(2) 1級資格取得要件

芸術環境研究領域の芸術教育分野または地域文化デザイン分野に在籍のうえ、修了要件を満たして大学院を修了することが必要です。修了後に送付される「修了証」で資格保有を証明できますが、証明書の発行はできません。

(3) 更新申請

芸術教育士1級資格を継続して保有するためには有効期間内に更新手続きが必要です。期限の通知などはありませんので各自で管理してください。手続方法等は修了証発行時の送付状にてお知らせします。

7. 学習に関する質問方法

大学への問い合わせは、電子メール、コンシェルジュ（質問フォーム）の方法があります。
質問の内容により回答に時間を要する場合があります。特に、教員に確認しなければならない内容の質問については、1週間程かかる場合がありますので余裕をもって問い合わせてください。

■コンシェルジュ

airUマイページにログインしたうえで、「コンシェルジュ」の質問フォームに必要事項を入力し送信してください。入力されたメールアドレス宛に返信します。

■電子メール

以下の必要事項を明記の上、質問専用アドレス（question@air-u.kyoto-art.ac.jp）へ送信してください。

件名（subject）：「質問：〇〇について」

本文：「学籍番号・氏名・メールアドレス・相談内容」

注意事項

- ・電子メールでは、コンピュータウイルス等、セキュリティ対策の観点から添付ファイルは受け付けておりません。
- ・機種依存文字は使用しないでください。ローマ数字・まる数字などは、算用数字に換えて入力してください。
- ・質問は1つのメールにつき1件としてください。
- ・携帯電話等からメールを送信される場合は、大学からの返信が受信できるようあらかじめ設定しておいてください。
- ・送信先メールアドレスの入力間違いに注意してください。誤ったアドレス宛に送信された場合、必ずしも「送信エラー」の通知がされるわけではありません。送信後、大学からの返信が遅い場合には必ず着信確認の問合せを行ってください。

芸術環境領域／美術・工芸領域のみ

演習・研究科目に関する質問で、各分野担当教員との面談での対応を希望する場合は、対応日や申し込み方法などを確認の上、希望日の10日前「必着」までに申し込んでください。

対応日	2023年6月～2024年2月（大学休止期間を除く） ※第1・第2希望日に対応できない場合は、日程変更をお願いすることがあります。
対応時間	一人30分程度、時間はこちらで指定します。
申込方法	airUマイページ＞コンシェルジュ・FAX・郵送・電子メールの質問フォームのいずれか。

■電子メール

以下の必要事項を明記の上、質問専用アドレス（question@air-u.kyoto-art.ac.jp）へ送信してください。

件名（subject）：「〇〇分野 面談申し込み」

本文：「学籍番号・氏名・メールアドレス・面談日（第二希望まで明記）・相談内容」

■郵送・FAX

airU学習ガイド＞13.書式集＞質問・相談の「対面相談申込書（教員・事務局）」を使用してください。希望日は第2希望まで書いてください。

注意事項

➤芸術環境研究領域

上記必要事項に加えて、希望教員名・希望面談方法（対面または遠隔）も明記してください。
対面を希望する場合は希望教員により京都か東京かをこちらで指定します。

➤美術・工芸領域

作品制作に関する質問の場合、写真の代替を推奨します。致し方ない場合のみ作品を当日持参してください。大学にお送りいただいても、受け取りやお預かりはできません。

